



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ しばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121



解説は社会教育課の井上さん

別名「めしげ踊り」。約800年前から肥後・薩摩を中心に唄い踊られている豊年踊りで、小林では岡原地区に代々伝わっています。笛に合わせて地面を蹴り、七・七調の相撲口説にのせて大きなめしげ(しゃもじ)を持って勇壮に踊ります。
保存会の皆さんに指導していただき、運動会では3年生から6年生の子どもたちが披露しました。



紙屋小 城攻め踊り

4～6年生

戦国時代(1570年頃)から語り継がれていた伊東氏と島津氏の争いが、江戸時代(元禄の頃)に、歌や踊りに表現されて城攻め踊りが発生したと考えられています。
永く途絶えていましたが、昭和57年、栗須正道氏(故人)の指導のもと、紙屋小学校6年生によって50年ぶりに復活しました。その後は、城攻め踊り保存会と紙屋小児童によって継承されています。

※ 他の郷土芸能についても、次号以降で紹介します。
◆ 小林市郷土芸能フェスティバルが6年ぶりに開催されます。11月12日(日) 午後1時～(小林市文化会館)

西小林小 大野勇太さんコンサート



大野さんは東京を中心に活動しているシンガーソングライター(高原町後川内出身)

大野さんが作詞作曲した「霧島山」を、4年生が西諸音楽祭で歌うことになり、歌唱指導をしてくださいました。それに先立ち、全校児童のために20分間のミニコンサートが開かれました。

歌ったのは、「霧島山」と「吉都線～夢をのせて～」
【お話より】よそで暮らしてみても、それまで恵まれた環境にいたんだなと思いました。霧島の山々があるからこそ、水や空気に恵まれています。こちらでは当たり前のことでも東京ではそうではありません。水道よりペットボトルの水を飲んでいました。ふるさとを離れた時、皆さんもふるさとの良さに気づくと思います。ぜひ発見してください。

裏に続きます。

今年の1月、東方小の3年生(現在の4年生)が、「のじりこびあ」にある野尻町歴史民俗資料館を見学しました。昭和初期の民家を再現したコーナーがあり、父親はわらををない、母親は糸を紡ぎ、子どもは教科書を読んでいます。
3年生は社会科で、昔の道具や暮らしに触れ、道具とともに移り変わる生活や、暮らしの中の知恵や工夫、人々の願いについて学びます。
家庭や地域で大人が語る「昔ばなし」は、懐かしさや苦労だけでなく、暮らしが変化した背景や、今に続く地域の人々の思いを伝えることにもなります。「昔ばなし」は、未来へ向かう子どもたちへの「バトン渡し」です。

伝統を繋ぐ子どもたち

小林市の郷土芸能から3つ紹介します。(写真は今年の運動会です)

小林小 兵児踊り



4年生と真方一区兵児踊り保存会の皆さん

兵児(へこ)とは鹿兒島地方で青年男子のこと。天正年間(450年ほど前)、島津・伊東の争いで、島津氏が薩摩武士の士気を鼓舞するために、ほら貝・太鼓を鳴らし踊らせたのが起源と伝えられています。また、大名の武備の強化を抑える徳川幕府に対して、兵児踊りを通して日頃の土風の鍛錬に励んだという説もあります。

永久津小 岡原田の神踊り



須木中 暮らしの困り事助け隊



社会福祉協議会須木支所の呼びかけに応え、17名の生徒とサポーター6名（ボランティア連絡協議会・民生児童委員・夏木地区友愛クラブ）が参加しました。あいにくの雨で、活動内容が限られましたが、地域の住宅1軒と須木支所、ふるさとセンターでガラス拭きをしました。

活動後は、ふるさとセンターで修了証明書ももらい、全員が感想を發表しました。サポーターの皆さんが所属する団体についての説明もあり、子どもたちは、地域のために活動している方々の思いを感じ取っていました。

細野中 思春期ピアカウンセリング講座



県福祉保健部の事業。思春期の心とからだについて考えるプログラムです。宮崎大学医学部看護学科の2～4年生12名が、6名ずつ、3年生の2つのクラスで授業をしました。主な内容は…

- ◆ ピアとは… 同じような立場や境遇、経験等を共にする人たちを表す言葉 ◆ 紙芝居「流されて青島～男女5人夏物語」… 性がテーマの物語についての意見交換 ◆ アンドロギュノス… 多様な性についての理解を深める物語
- ◆ 愛の12段階… 恋愛を、その時の感情だけでなく、自分の人生の段階を見据えて考える。
- ◆ 4億分の1… 受精の確率

3年生は意見交換を通して、相手の考えに触れ、多様な価値観があることを理解しました。

南小 まちなか松栄見学

3年生



社会科見学です。店長の本村さんにたくさんの質問をした後、グループで店内を回り、お店の方やお客さんに質問したりメモを取ったり…。大人の人とたくさん話ができて、コミュニケーションの良い機会にもなりました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



成澤俊輔さんの講演会



「絆を結ぶ物語楽園」に成澤俊輔(なりさわしゅんすけ)さんをお迎えしました。成澤さんは、自称「世界でいちばん明るい視覚障がい者」。経営コンサルタントとして国内外で活躍されています。

講演では、楽園の「校長」と「副校長」を務める小林高校生との対話を通して、参加した約30名の小・中・高校生にたくさんのアドバイスを送っていただきました。

その一つが「大人と話をするのに慣れる」というもの。昔とくらべ、地域社会の中で子どもが大人から学ぶ機会が少なくなっている今、多くの経験を通して表現力を養ってほしいとのこと。「量からしか質は生まれない」の言葉とともに、経験することの大切さを強調されました。

子どもたちが大人との交流を通して身に付ける可能性を感じたひとときでした。(主催)実行委員会 (共催)キャリア教育支援センター (会場)TENAMUビル

小林キッズお野菜プロジェクト



大角恭代さん(野菜ソムリエ)による料理教室。小学生と保護者、約20名が参加して小林中央公民館で行われました。メニューは、「里芋団子のお出汁がけ」と「秋野菜のカレー風」など。今が旬の小林の食材を使った料理に、子どもも大人も、和気あいあいとした雰囲気で行っていました。

羽田野祥子さんの講演会

テーマ「稼ぐ力とキャリア教育」



羽田野さんは日南市で「企業体験プログラム」を実践しています。これは、中高生が「起業家」となり、本物のお金を使って自分たちで事業を立ちあげ、販売や決算について学ぶものです。オリジナルデザインのTシャツやトートバッグの販売など、中高生が手掛けたプロジェクトの紹介に加え、やりたいことを実現する力を身に付ける、試行錯誤しながら仲間と協力してやり遂げる、仕事の成り立ちを知り、自分の将来の道筋を立てることの大切さを語っていただきました。

本市の「こすもす科」の授業でも、子どもたちの街づくりのアイデアがたくさん生まれています。



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

この秋、多くの小中学校でさつまいもの収穫や稲刈りが行われました。各学校の活動を通して、地域の協力のありがたみを感じています。

もし、学校だけで農業体験をしたら？ 田畑や苗の準備、作業の説明のことなどを考えるとかなり難しいでしょう。活動中、「感謝の気持ちをもって」とか「たくさんの方に支えられて」など、子どもたちや先生方の言葉によく出会います。

学校のさまざまな活動を支えていただいている地域の皆様には、感謝・感謝！です。

手話の学習

本市では「小林市手話言語条例」に基づき、小学3年生と5年生、中学3年生で手話を学びます。教えて下さるのは「木の実会」(旧市内・須木地区)と「野尻手話サークル」(野尻地区)の皆さん。

子どもたちは、手話や指文字を学ぶとともに、聞こえない人の日常生活を知り、困っていることを理解して、自分たちができることを考えます。活動に接する度に、手話の学習は「ふれあいと思いやり」の学習だと思っています。



【永久津中全校生徒】
トラクターで掘り起こして



【紙屋小1・2年生】
たくさんの大人と一緒に



【西小林小5・6年生】
コンバインでの脱穀



【栗須小全校児童】
足踏式脱穀機の体験



【細野小5年生】コンバインの仕組みと昔の道具



【三松小5年生】
鎌の使い方の説明



【須木中 3年生】補聴器の体験・自己紹介



【東方小 5年生】口話(口の動きで伝達)・ジェスチャー



【野尻小 3年生】手話歌「パプリカ」



【細野小 3年生】指文字・自己紹介

◆ ここに、手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解と広がりをもって、全ての市民が互いに助け合いながら安心して暮らすことができる小林市を目指し、この条例を制定します。(小林手話言語条例より)

裏に続きます。

永久津小 社会科見学

3年生



7名の3年生が開店前のコープ小林店を訪問。店長の中武さんの案内で売り場とバックヤードを見て回りました。パンを作るところや届いたばかりの野菜、宮崎牛の大きな塊など、子どもたちは初めて目にする準備の様子に興味津々でした。日向灘のカツオなど、魚の名前と産地も知り、たくさん質問をして熱心に学んでいました。

紙屋中 陶芸教室

1年生



指導は園田さん(園田陶苑)

地域の陶芸家、園田さんによる陶芸教室は1年生を対象に10年以上続いています。

今回の授業では、前の時間に制作して素焼きした自分の作品と、園田さんからいただいたマグカップに、丁寧に絵や文字を入れていきました。この後、窯で焼き、完成した作品は文化発表会で披露しました。

幸ヶ丘小 フラワーアレンジメント体験



宮崎県技能士会連合会の協力を実施。全校児童11名と家族、約25名が、フラワー装飾技能士(生花店や生産者の皆さん)に教えてもらいながら、スプレーカーネーションやガーベラ、千日

紅の寄せ植えを楽しみました。

色のバランスを考えて花を選ぶことから始めたので、個性豊かな作品がたくさん出来上がり、参加者は互いの寄せ植えに見入っていました。

須木小・中 土俵の縄編み

永田館



小学校3年生以上と中学生が参加。ほぜ祭りで行う「ほぜっ子相撲」の土俵(直径4.5m)の縄をおよそ8年ぶりに作りました。

ここ数年は体育館でマットを使って相撲を取っていましたが、外でやりたいという声もあり、縄編みを実施。3人がそれぞれ1束を持ち、合図でくると1回転。太い縄が少しずつ編まれていきました。地域の方も昔のやり方を思い出しながら子どもたちに教え、賑やかな作業になりました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第8弾



ゲストスピーカーは山口能敬(よしとか)さん。元は熊本県の公立高校教諭(商業)。東京CPA会計学院熊本校の開設にあたり、当校に進学した教え子と働きたいとの思いから転職を決意。最年少税理士試験合格者を始め、数多くの職業会計人を輩出しています。

「これからの職業に必要な技能として語学やパソコンが話題になりますが、税理士や公認会計士など、会計のできる人が求められています。試験は難しいですが学歴は関係ありません」というお話から始まり、教師を目指すきっかけとなった高鍋東小の先生との出会いや、専門学校での卒業生との出会い、専門学校の卒業生との出会い、困難の乗り越え方などのお話をしてくださりました。

「自分を応援してくれる人がいるのは幸せ」とか「目標を持った瞬間に困難はやって来ます。それをプラス思考で、ワクワクして迎えられたら…」など、心に残る言葉をたくさんいただきました。



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

あけまして おめでとうございます



新しい年を迎え
皆様のご健康とご多幸を
お祈り申し上げます
小林の教育がさらに活性化する
ことを願い、今年も、地域や学校
の様々な取組をお伝えします。



須木中



紙屋中

須木中と紙屋中では、地域の皆さんと一緒に、毎年、しめ縄を作ります。作り方を教えていただきながら、いろいろな話が飛び交い、世代間交流の貴重な機会にもなっています。両校とも、昨年12月に実施しました。(写真は、一昨年以前のものです)

小林市 郷土芸能フェスティバル



【真方一区兵児踊】保存会と小林小学校児童



【東方輪太鼓踊り】東方中



【紙屋城攻め踊り】紙屋小

昨年11月、市文化会館で6年ぶりに開催され、小中学生も出演しました。

- その他の演目は… ◆ 岩戸神楽(堤)
◆ 剣舞一の谷(須木) ◆ 東麓新地馬場棒踊り(野尻)
◆ 永田町馬踊り ◆ 細野一区輪太鼓踊り
◆ 萩川神楽(高原町:ゲスト出演)
◆ 江戸太神楽(仙若さん・若遙さん親子)
仙若さんは野尻町出身、東京在住です。



上記の他にも、郷土芸能の継承活動を行っている小中学校があります。練習風景を取材する中で、「郷土芸能をずっと守っていきたいです」と元気に話すたくさんの子どもたちと出会いました。

永久津小 味覚の授業

3・4年生

【講師】地井潤さん。ヨーロッパ3か国の日本大使館でシェフを務めた元公邸料理人。地元の食材を使ったレストラン Kokoya de kobayashi (ここやっど小林)を開いています。



鼻をつまむと味を感じません



サポートは中村さん
(小林市農業振興課)

子どもたちが味覚を意識し、食の楽しさを学ぶ食育の授業。五感と五味について考えた後、甘味(砂糖)、塩味(塩)、酸味(酢)、苦み(コーヒー)、うまみ(だし)を味見しました。子どもたちは味の感想を述べながら、それぞれの味や、二つを合わせた味から、味の奥深さ、食の大切さを学んでいました。「同じものを食べても味の感想はさまざま。それが個性です」と、地井さん。



東方中 パラスポーツ交流会



コロナ禍で中断していた交流会を久しぶりに実施。東方中34名、こすもす支援学校中学部11名の生徒が9つのチームを作り、ボッチャとフライングディスクで交流を深めました。ボッチャでは、東方中生はひじから下だけを使って投球。支援学校生の補佐も務めました。フライングディスクでは審判も交替で行い、ディスクがリングを通過する度に、元気よく旗を挙げていました。

※ ボッチャは障がい者スポーツとしてヨーロッパで生まれました。パラリンピックの正式種目になっています。

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

裏に続きます。

西小林小 おもちゃまつり

2年生



幼保小交流の一環で「おもちゃまつり」を開催しました。西小林保育園、かおる幼稚園から合計20名の園児が来校。2年生が準備した手作りのおもちゃで遊びながら楽しく交流しました。

活動中は小学生も園児も笑顔でいっぱい。別れ際には、名残惜しそうに何度も振り返り「バイバイ！」と呼びかけ合っていました。

南小 昔の遊びフェスティバル

1年生



竹とんぼ

あやどり

区長さんを始め、地域の方26名と40名の1年生が、11種類の遊びを通して交流。子どもたちは、各自が選んだ4つの場所を回り、やり方を教わりながらいろいろな遊びに挑戦しました。

感想を発表する時間には、「できるようになって、どんどん楽しくなりました」とか、「初めてでしたが、やってみたら面白かったです」など、大満足の声がたくさん聞かれました。

栗須小 みかんやまスマイルフェスタ



10年前から続く、学校と地域の協働活動です。

午前中は保護者と一緒の餅つき大会。全校児童で収穫したもち米を使い、お餅に丸めてみんなで楽しく食べました。5年生は、

「栗須っこ米」のブランドでの販売も行い、保護者や地域の方が次々と買い求めていました。

午後からの防災訓練には、学校と栗須地区の様々な団体が参加して、災害時の避難所づくりを地区体育館で実施しました。簡易テントやベッド、トイレの組立と設置、救急救命法(AEDの使い方)の講習、芋煮の炊き出しなどを行いました。

みしのたくかにと おはなし会



昨年11月11日(土)、市内で読み聞かせの活動を続けているグループの皆さんが開いたおはなし会です。山形や千葉など、県外からも8名の読み手が参加して市立図書館で行われました。

午前中は読み聞かせとおもちゃづくり、午後は大人も対象の読み聞かせ。本を読まない「語り」や、本と小さな人形を使った物語もあり、子どもも大人もプログラムの一つひとつに引き込まれていました。小中学校で定期的に読み聞かせをしている方々にとっても、技術を磨く良い機会になりました。(おはなし会のタイトルの意味は? 右から…)

こんにちは! 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第9弾



【井料瑠美さん】小林市出身。小林高校卒業後、ミュージカルの道へ。劇団四季で数多くの主役を演じてきました。演技力、歌唱力に定評があり、ストレートプレイ(舞台演劇)からエンターテインメントまで幅広く活躍されています。

音楽好きの家庭に育った井料さんが、劇団四季のトップスターになるまでの道のりや舞台芸術への思いをお話してくださいました。講演の中から心に残った言葉をまとめてみました。

◆ 普通に話し、歩いていても、歌って踊っているように見える「変な子」で、他の人と違うことでいじめられることもありました。◆ 17歳の時、劇団四季のミュージカルを初めて観て、「ここが私の場所」だと思いました。◆ 両親を始め、周りの大人全てから、「なれるわけない」と反対されましたが、今は、反対した人全てが私の恩人だと思っています。◆ 音大出身やバレエ経験者ばかりのオーディション(1500人中、合格者は11人)を経て養成所に入りました。◆ 自主練も含め、1日13時間の練習も、「やりたいことがやれるという喜びで、とても幸せでした。厳しいことを言われた時、怒るよりも、言ってもらってよかったと思います。◆ 舞台芸術や演劇を観たことがない方々にこの世界を知っていただきたい。舞台芸術は本当に尊い仕事、皆さまの夢を叶える場所でもありますので、私のイメージを保ちつつ、夢の裏側をお伝えできたらと願っています。◆ 「出る杭は打たれる」と言いますが、海外の高名な演出家から「あなたはあなたのみままでいい」と言われたことが忘れられません。◆ 一人ひとり、「夢の種子」をもって、生まれてきます。自分の本音に正直に生きることにおおらかな環境が広がっていきますよう願っています。物語は困難がないと盛り上がりません。困難な時こそ「夢の種子」をずっともち続けていたいと思っています。



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 Tel.23-4121

「小林のよさや特色、課題について知り、これからの小林市の未来を考える」小林未来予想図。中学3年生、こすもす科の授業です。

毎年、さまざまな発表に接する度に、中学生の豊かな発想に感心しつつ、実現できたら…と願うものも少なくありません。高校生が探究活動の中で地域おこしに関わっている事例もあります。中学生のアイデアを形にする取組が少しずつ生まれてくるといいなと思っています。



小林中

4学級の24グループが、他の学級で相互に発表しました。市役所職員(地方創生課)や高校の先生方(探究活動担当)も参観。感想やアドバイスをいただきました。



野尻中

寸劇を取り入れた発表で笑いが起きる場面もありました。発表後は、テーマに関連する市役所各課の職員と懇談。市の施策についての説明も聞きました。

西小林中 秀峰高校訪問【福祉体験】 1年生



福祉系高校の生徒が、中学生に介護の魅力を伝える「介護の魅力発信事業」(県長寿介護課)

福祉科の2年生2人による学科の紹介と福祉や介護についての説明の後、西小林中1年生20名が福祉機器とボッチャのグループに分かれて体験しました。機器は、上に座ってスムーズに移動できるスライドボード・移乗サポートロボット「Hug(ハグ)」・腰への負担を減らすマッスルスーツを体験。ボッチャでは、障がいのある方と一緒にチームを組んで試合をしました。

須木小 放流体験学習

4年生



須木漁協(西道組合長)から提供されたウナギ、約30匹を河川プールに放流しました。

初めに、須木支所の片地さんによる「川の話」。須木の川がきれいなのはなぜ?どこに流れ、どんな魚がいる?など、子どもたちに問いかけながら自然の豊かさと環境を守るためにできることについて話をしてくださいました。

その後は放流体験。うなぎはぬるぬるしてつかむのに苦労しましたが、「大きくなってね」と声を掛けながら、一匹一匹川へ放しました。

三松小 冬のおはなし会

わたぐも絵本の会:保護者による読み聞かせサークル



かさじぞう



クリスマス前のおはなし会。昨年引き続き実施しました。20名ほどの保護者が午前中から準備をして、昼休みに子どもたちを迎えました。

参加は自由ですが、体育館は子どもたちでいっぱい。スクリーンを使った読み聞かせや紙芝居、劇などの出し物の一つひとつに大きな拍手や笑い声で応えていました。最後はクリスマスソングの合唱で楽しいひとときを終えました。

**学校に関わるボランティアを募集しています。
詳しくは社会教育課までお尋ねください。**

裏に続きます。

永久津保育園・小・中 そば打ち

年長組・小6
中1の活動



食育の一環として、JAこばやし北支所の協力で、毎年行っています。そば粉は9月に種をまき、11月に収穫したもの。

JA職員の説明の後、地域のそば打ち名人、倉菌さんの

指導で、小中合同、園児のグループで活動しました。手でこね、めん棒でのぼす作業は難しかったですが、多くの大人に教えてもらいながら完成。JA女性部の方が作ったそばつゆでおいしくいただきました。心も体も温まったひとときでした。

三松中 学校保健委員会（講演会）



中学生に大切な生活習慣



【渡辺なおみさん】
あすりーと道場BUSHITSU
(宮崎市)チーフコーチ・理学療法士・日本スポーツ協会
アスレティックトレーナー

生徒と保護者が対象の講演会。生活習慣の整え方について、栄養や筋肉、睡眠、脳の働きなどの側面から分かりやす

くお話していただきました。

細野中 (株)ミヤザキ工場見学

昭和48年創業。アクリル・樹脂・プラスチックの特注加工を専門にしています。



メッセージカードと肖像画を贈呈



山之上社長（細野中出身）のお話を聞き、工場を見学。社長は、中学高校時代のことや会社を興すまでの道のり、経営者としての心構え、中学生へのアドバイスなどを熱く語っていただきました。

見学したどの部署でも、社員の皆さんが丁寧に挨拶してくださり、工場内は、トイレを含め、隅々までとてもきれいでした。毎日、社員が交替で掃除をしているそうです。

幸ヶ丘小 花いっぱい活動

卒業式と入学式を彩る花を植えました。



学校用務員の宇治野さん・坂元さんに土づくりから教えてもらい、一人二鉢、ビオラとペチュニアを植え付けました。鉢は日当たりの良い体育館横に並べ、早速水やりをして、お世話開始！

子どもたちは、毎日、花の観察と世話を続けています。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第10弾



【川野美紗子さん】小林市在住のキャリアコンサルタント/インターンシップコーディネーター。2012年に東京からUターン後、地元商店街の空き店舗活用事業や観光イベントの企画運営に携わり、2018年に旧小林市観光協会の歴代最年少・初の女性事務局長に就任。2022年協会解散を機に退職後、企業の採用面接やキャリア面談、女性活躍に関するコンサルティング、ブログ執筆などを中心に活躍されています。

演題は「大学の無い街のキャリア教育」。地域でキャリアを築くことについてのお話です。

中学生から大学生の時期、「情報はネットでたくさん手に入るが、より現実感を伴うキャリア経験に出会う機会が少なく、この街で働き、キャリアを築くイメージをもちづらい」。企業にしても、「若者がそばにいるイメージを抱きにくい」。このような地方の特性に触れ、ご自身の仕事も紹介しつつ、就業体験の必要性や受け入れ体制の充実、自分で考え・自分で選び・自分で決める自律的意思決定の重要性についてお話していただきました。

その後、参加者は少人数のグループに分かれて、感想などを語り合いました。

※ **キャリア**：一般的には「個人の長期にわたる職業的経歴」のことです。仕事や就職、昇進に繋がるイメージがありますが、職業選択に関する活動や心構え、仕事への関わり方の過程でもあり、生涯向き合っていくものです。キャリアはその人の「生き方」とも言えます。

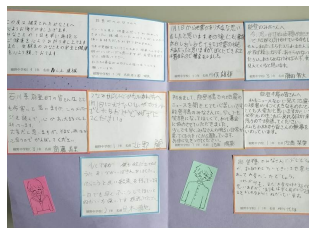


地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 Tel.23-4121



能登半島地震に際し、小林市の小中学生が行った「お小遣い募金」のニュースに接した方も多いことでしょう。募金に加え、細野中生徒会では、能登町の4つの中学校にあてて、全校生徒のメッセージをまとめました。

「少しでも笑顔になっていただきたくて募金に協力しました」、「被害状況が明らかになる中で、言葉にならない思いがあふれてきます」、「また、活気のある石川県と皆様の笑顔 テレビで見られることを願っています。元の生活に早く戻れますように」など、励ましや寄り添う言葉がたくさん。読んでいるうちに子どもたちの優しさが伝わってきました。メッセージは災害派遣(2月1日出発、第3班)の市職員が届けました。

幸ヶ丘小 防災教室

児童・保護者・地域の皆さんが参加しました。

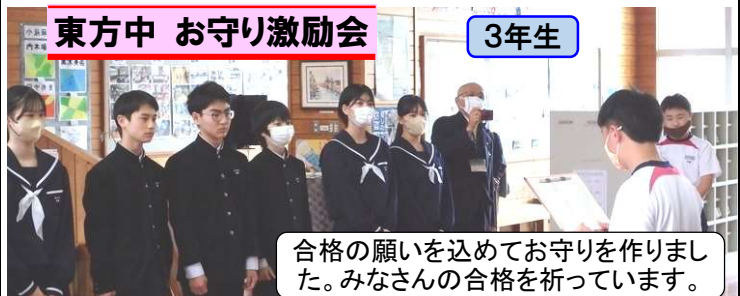


以前から計画していた活動が能登半島地震後、防災への意識が高まっている中で行われました。主な内容を写真の番号順に紹介します。

- ① 講話(赤松さん:小林市役所危機管理課)
赤松さんは防災専門員、元自衛官です。お話は…
◆ 能登半島地震と小林市の支援活動 ◆ 小林市の過去の災害 ◆ 防災の取組(地域で・個人で)
- ② 災害袋・避難所用ダンボールベッドとテントの設営(小林市災害ボランティアコーディネートセンター)
ベッドは大人と子どものグループでそれぞれ組立て、丈夫な構造に、参加者全員が感心していました。

- ③ 防災食(小林市赤十字奉仕団・消防団)
米と水を袋に入れ、湯せんするとご飯ができます。
- ④ 防災食のご飯とカレーをいただきました。
お話の終わりに赤松さんが言われたこと…

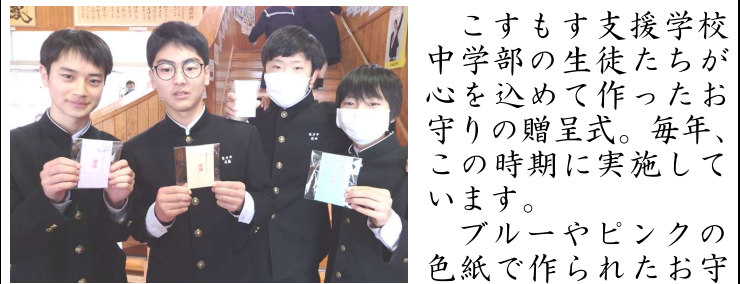
いざという時は近くに住んでいる方との協力が頼りになります。日頃からあいさつを始め、地域の方と仲良く生活していきましょう。



東方中 お守り激励会

3年生

合格の願いを込めてお守りを作りました。みなさんの合格を祈っています。



こすもす支援学校中学部の生徒たちが心を込めて作ったお守りの贈呈式。毎年、この時期に実施しています。ブルーやピンクの色紙で作られたお守

りを贈られた10人の3年生は、入試に向けての決意を新たにしていました。

【お礼の言葉】全員が志望校に合格できるよう頑張っていきます。ありがとうございました。



東方小 グローブ贈呈式

手紙とメッセージカードも紹介されました。



大谷翔平選手からのグローブが市内の小学校に届き、1月中に各学校で披露されました。

東方小では風邪が流行っていたため、6年生の教室からオンラインで実施。野球チームに所属する6年生2人が受け取りました。

根井校長先生の「みんなで仲良く使って夢をくらませてもらいたいと思います」というお話の後、代表の児童2人がお礼を述べました。

最後に、グローブを使う際のルールの説明があり、子どもたちは真剣に聞いていました。現在、日替わりで学年ごとに使っています。

小林小・南小 合同スクールコンサート

専修大学熊本玉名高等学校[Ventures]



両小学校区のまちづくり協議会が主催したコンサート。4年生以上が鑑賞しました。

出演はVentures。マーチングバンド全国大会で何回も金賞に輝いている名門です。

吹奏楽とカラーガード隊による迫力満点のパフォーマンスに、子どもたちは身体でリズムを取りながら聴き入っていました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第11弾



ゲストスピーカーは、本市の中屋敷史生教育長。「小林市のキャリア教育」について、市独自の教科「こすもす科」の解説を加えながらお話してくださいました。

主な内容をキーワードと共に紹介します。

【キャリア教育の捉え方】これまでのゲストスピーカーのお話にはいろいろな視点がありました。共通するのは「社会に出た時の自立」かなと思います。【コロナ禍】来年度の小学1年生は自然体験や社会体験が乏しいまま入学してきます。学校はデジタル化が進んでいますが、アナログ的な体験もバランスよく取り入れる必要があります。

【人口減少】将来、生産年齢人口が5割減少すると言われており、分野を超えた競合が当たり前の時代がやってきます。【グローバル化】異なる文化や宗教をもつ人たちと一緒に社会を支えていく時代が訪れます。

【人生100年時代】2007年に生まれた人が100歳まで生きる確率は50%。働く期間が長く、働くステージ(段階)も増えます。しかし、「自己研鑽をとくに行っていない」と答えた社会人が半数以上おり、「世界一ビジネスマンが学ばない国 ニッポン」と言われています。(インドやベトナムは3~4%)

【こすもす科創設の経緯】◇ 実態(小林市総合計画)と全国の傾向(中教審答申)を基に、市内の小中学校の実態を分析して、進むべき道を明らかにしました。(平成21年度開始) ◇ 小林ではキャリア教育を踏まえた学力向上を目指しています。「こうなりたい」と思えば、鉛筆やノートは出てきますね。【活動の紹介】細野中1・2年生のこすもす科の動画(夢を探そう・小林の魅力再発見)

【質問に答えて】小林の教育で大切にしていることは…
① 教えることから育てることへ(主体性) ② 集団指導から個別指導へ(多様性) ③ 短所から長所へ(有用性)

こすもす科のねらいや学習のポイントの説明は指導方法を見直すきっかけにもなりました。講演後は、グループで感想などを話しあいました。

【感想より】 ◆ 70歳を過ぎて「今更…」と思っていたが、100歳までのお話を聞き、「学んでいいんだ」と思った。

◆ 昔は当たり前だった様々な体験の機会が少なくなっ



おり、こすもす科は貴重な学びの場となっている。その重要性を改めて学校で確認すべき。

◆ 自然体験や社会体験を学校だけで実施するのは難しい。先生方も大変だと思うので、専門家や地域の人材を活用してほしい。

西小林小 JICA の授業

6年生



戸高将(まさ)先生:「発展途上国の人々の役に立ちたい」という高校時代からの夢を実現するために、5年前、西小林小を1年早めて退職。JICA(国際協力機構)の一員として、ベトナムで1年間、日本語の指導をした後、昨年からパプアニューギニアのソゲリ小学校(公立)で算数を指導。現地の教師に指導技術も伝えています。

ソゲリ小学校(パプアニューギニア)



教室



チャイムの代わりにたたきます。



戸高先生はベトナムとパプアニューギニアの生活や学校の様子をたくさん写真と共に紹介してくださいました。日本と異なる

風景に接した6年生からは、時折、笑いや驚きの声があがっていました。外国の文化や学校生活を学ぶことを通して、自分たちの生活を振り返る貴重な時間にもなりました。

【ソゲリ小学校】児童数約400人 ■ ないもの: 体育館・プール・保健室・理科室・音楽室・職員室・給食・集団登校・帰りの会・係活動・委員会・クラブ活動、トイレは1か所、水道の蛇口は5つ、図書室はあることはあるけど…